

令和5年度事業報告書

自 令和5年4月1日

至 令和6年3月31日

金沢医科大学氷見市民病院

重点事業

全13項目中

- A: 1項目 (8%)
- B: 9項目 (69%)
- C: 2項目 (15%)
- D: 1項目 (8%)
- E: 0項目 (0%)

その他の年度事業

全 5項目中

- A: 2項目 (40%)
- B: 3項目 (60%)
- C: 0項目 (0%)
- D: 0項目 (0%)
- E: 0項目 (0%)

評価基準

- A: 計画目標を達成できた (100%達成)
- B: ほぼ達成 (70~99%)
- C: 半分程度の達成 (40~69%)
- D: 一部達成 (10~39%)
- E: 事業の延期・中止等 (0~9%)

目 次

【全部門重点課題】	2
（1）新型コロナウイルス感染症への対応・対策	2
（2）全教職員の働き方改革の実践	2
（3）経費削減の推進（特に節電・節水）	3
【重点事業】	4
（1）医師の働き方改革の実践	4
（2）新型コロナウイルス感染症を含む新興感染症に関する院内体制の確立	5
（3）氷見市との協定改正に係る協議の推進	5
（4）医療スタッフの確保対策（看護師・薬剤師他）	6
（5）初期臨床研修医の確保（初期研修医2名を目指す）	6
（6）病院機能の見直し	6
（7）地域医療連携の推進	7
（8）部門システムの更新（病院情報システムの計画的更新）	8
（9）患者増加対策の推進	8
（10）施設基準管理の徹底（新規取得と維持）	9
（11）経費削減の推進	9
【その他の年度事業】	10
（1）氷見市との連携	10
（2）回復期リハビリテーション病棟患者数の増加	11
（3）へき地巡回診療の継続	11
（4）経営管理指標	12

【全部門重点課題】

(1) 新型コロナウイルス感染症への対応・対策

- ・ 新型コロナウイルスワクチン接種の個別・集団接種を行い地域に貢献する。
- ・ 新型コロナウイルスによる院内クラスターを未然に防ぐ。
- ・ 引き続き、新型コロナウイルス感染症への対応・対策が必要な場合には、迅速に CEO・病院長ミーティング及びコロナ対策チーム会議を開催し、会議で検討した結果は、速やかに全職員に周知徹底する。
- ・ 氷見市との連携により、特殊勤務手当（コロナ患者対応危険手当）を確保する。
- ・ 申請漏れがないよう対象補助事業を確実に申請する。

(各部門における取組状況)

- 新型コロナウイルスワクチン個別・集団接種を行った。特に集団接種は、日曜日・土曜日の午後に実施した（2,519人）。
- CEO・病院長ミーティングを隔週で開催することで、感染状況に応じた臨機応変な対応を行い、院内クラスターについては、最小限の被害に収められた。
- 特殊勤務手当は通常6月末までのところ、氷見市と協議を行い9月末まで延長した。
- 病床確保事業においては、氷見市内のコロナ患者受入れのため、感染状況に応じて即応病床の増減で対応することとし、院内体制の整備や富山県との協議を随時行い、適切な補助金確保に努めた。

(2) 全教職員の働き方改革の実践

- ・ 超過勤務時間数の削減 総超勤時間 5.0%減を目指す。
- ・ 有給休暇5日間取得率 100%とする。
- ・ 職員満足度調査の実施・結果からの改善事例実績を作成する。

(各部門における取組状況)

- 超過勤務時間数については、部科長会等で常に削減への協力依頼を求めており、その結果、1月末時点では昨年度比で月の超勤時間は9.8%減、超勤手当総額は6,897,163円減となっている。
- 有給休暇5日間取得については、医師については10名程度、医師以外の職員に

については4名、年間5日間取得を達成できなかった。

- 職員満足度調査は12月に実施したが、WEB回答に変更したため、回答率が下がる結果となった。

(3) 経費削減の推進（特に節電・節水）

- ・ 電気使用量、水使用量を前年度より削減する。
- ・ 氷見市における補助事業との関連を見ながら、建物内の照明のLED化や太陽光発電の導入などを検討する。
- ・ 病院施設の長寿命化計画を策定していく中で省エネルギー設備の採用や保守・更新の容易さを考慮した施設・設備の整備等、ライフサイクルコストの縮減に繋がる手法を検討する。

(各部門における取組状況)

- 電気使用量は削減に努めたが、3,106kWh/月(0.8%)の減少になり、灯油は6,243L/月(20.0%)減少、水は271m³/月(8.3%)減少した。
- 使用料金については、電気料は797,192円/月(8.2%)増となったが、灯油は410,166円/月(15.1%)減少、水道は216,627円/月(14.1%)減少した。
- LED・太陽光発電は氷見市と調整中であり、太陽光発電に関しては、令和7年度から8年度に導入予定。
- 長寿命化計画策定済み。

【重点事業】

(1) 医師の働き方改革の実践

- 1) 医師の勤務実態の把握（副業・兼業含む）

【達成度】 B

- 2024年4月から開始予定の「医師の働き方改革」に対応するため、客観的で正確な時刻記録を行い、労働状況をタイムリーに把握できる仕組みを作り、労務管理を行う必要がある。
- ・ 就業管理システムによる勤務状況の把握

(達成状況)

- 就業管理システムによる勤務管理を開始しており、ほとんどの医師が打刻するようになった。今後、超過勤務申請や休暇申請の運用を開始できるよう引き続き取り組んでいく。今後も引き続き医局会、部科長会等で、出退勤時の打刻の徹底、適正な超過勤務申請の指導を行っていく。

- 2) 労働時間短縮に向けた取組の推進（時短計画の策定・宿日直許可の申請）

【達成度】 B

- 医療従事者の時間外労働時間数を把握することにより良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進する観点から、医療従事者の健康確保と長時間労働の改善を行う。
- ・ 金沢医科大学氷見市民病院当直規程を見直し、高岡労働基準監督署へ医師の宿日直許可の申請を行う。
 - ・ 医師の時間外労働時間の上限規制の適用水準を決定する。
 - ・ 全職種における超過勤務の定義を策定する。
 - ・ 医師の時間外労働時間の短縮計画を策定する。

(達成状況)

- 医師の宿直許可（23時から翌8時45分）を申請し、許可が下りた。
- 医師の時間外労働時間の上限規制の適用水準は、A水準（960時間未満）とすることに決定した。

- ▶ 超過勤務の定義については、医師を含め全職員に通知し徹底していく。

(2) 新型コロナウイルス感染症を含む新興感染症に関する院内体制の確立

【達成度】B

- 新型コロナウイルス感染症対応において、これまでは緊急時対応として一部の診療科により体制維持がなされてきたが、3年が過ぎ、今後は通常時の体制として組織的に対応する必要がある。
 - ・ 感染症病床のハード面の整備及び病床の管理、対応診療科など運用の確立。
 - ・ 発熱外来のハード面の整備及び外来の管理、対応診療科など運用の確立。

(達成状況)

- ▶ 病床確保補助金の制度改定に伴い、随時コロナ受人病床を変更しており、10月以降にむけて個室内での管理へ移行中である。
- ▶ 発熱外来の運用については、感染状況に応じた対応が行えており、今後の一般外来での受け入れに向けて検討を行っている。

(3) 氷見市との協定改正に係る協議の推進

【達成度】C

- 2028年3月に指定管理期間が満期となるため、満期の2年前(2026年3月31日)までに継続について決定しなければならない。再契約の場合においては、現協定書を見直し本学経営に適正な条件で協定を結ぶ必要があるため、法人と連携し、氷見市と協議を進める必要がある。
 - ・ 現行の協定書・覚書等の修正が必要と思われる事項に対して要望を整理する(指定管理者負担金の廃止、地方交付税(一般・特別)の維持、市単独支援としての病床割減額相当分(激変緩和措置)、職員住宅借上げ経費の継続など)。
 - ・ 要望事項を氷見市へ提示し、協議を開始する。

(達成状況)

- ▶ 氷見市民病院の将来構想及び基本協定の改定に向け管理運営会議を開催し、氷見市長に対し指定管理者負担金の軽減に関する協議をおこなった。

(4) 医療スタッフの確保対策（看護師・薬剤師他）

【達成度】B

- 慢性的な医療スタッフ不足が生じており、再雇用でしのいでいるが、高齢化が進み院内の活性化が図られない状況である。
- ・ 看護師 25 名・薬剤師 3 名・臨床検査技師 2 名・言語聴覚士 1 名を確保する。
- ・ SNS の利用による病院情報の配信により、就職希望者の増加を図る。

(達成状況)

- 看護師は既卒者を含め 24 名の採用。異動 1 名を含め 25 名確保できた。
- 検査技師は 2 名採用。来年度中に 2 名採用予定（欠員補充）。
- 言語聴覚士は 1 名採用。
- 薬剤師については応募がないため、派遣職員の採用も検討していく。
- YouTube に薬剤師や臨床検査技師の仕事紹介をアップすることで、就職希望者の増加を図っている。

(5) 初期臨床研修医の確保（初期研修医 2 名を目指す）

【達成度】B

- 富山県における初期臨床研修医のマッチング状況において当院は劣勢であり、本学からのたすき掛けに頼っているのが現状である。
- ・ ホームページの見直しを図る。
- ・ SNS の利用による病院情報の配信により、就職希望者の増を図る。

(達成状況)

- 初期臨床研修医はマッチングでフルマッチし、3 名確保できた。

(6) 病院機能の見直し

【達成度】C

- 今後の氷見市民病院の方向性を検討する上でも、地域が求めている医療を把握しておく必要がある。本学が進めたい医療との整合性を取りながら、急性期、亜

急性期、回復期リハなど病棟機能を検討していかなければいけない。

- ・ 地域の声を聞くためのタウンミーティングを実施する、またはモニター制度を導入する。

(達成状況)

- 病床機能については、急性期病床と回復期病床を維持し地域包括医療病棟の導入を検討いく。
- タウンミーティングの実施については、今後、検討を進める。

(7) 地域医療連携の推進

1) 在宅療養後方支援病院として緊急入院やレスパイト的入院機能の導入

【達成度】D

- 超高齢化地域において、在宅療養をしている患者や家族が安心して暮らせるよう 24 時間緊急入院の受入を保障する体制である「在宅療養後方支援病院」の新規獲得と、一時的に在宅療養が困難になる場合や介護者の介護疲れに支援できるレスパイト的入院機能を導入し、入院患者増対策を図る。
- ・ 在宅療養後方支援病院の運用を開始する。

(達成状況)

- 在宅療養後方支援病院としての役割は、すでに担っているため次年度に向けて新規届出する予定とする。(氷見市内の在宅療養患者はほぼ当院に救急搬送されるため、新規獲得可能と考える。
- 最近、訪問診療専門の医院を開業した OB との連携を検討する。

2) 多職種連携情報共有アプリ (バイタルリンク) の導入

【達成度】B

- バイタルリンクは、在宅診療における患者ケアに関する様々な情報を多職種間で場所を選ばずどこでもリアルタイムに共有できることから、高岡市医師会に導入されている。カンファレンス機能も備えていることから、氷見市医師会としても導入を推進しており当院が先導役として地域医療連携を図る。
- ・ バイタルリンクの運用を開始する。

(達成状況)

- ▶ バイタルリンクを導入し、現在、地域医療機関との間で運用中である。

(8) 部門システムの更新（病院情報システムの計画的更新）

【達成度】A

- 開院以来 16 年目を迎え、各部門システムが老朽化し、更新時期に来ているため、中期計画に基づき更新を行う。また、近年重要性が増しているサイバー攻撃対策についても整備を行う。
 - ・ 部門システム更新（麻酔管理システム ・ 物流システム ・ 病診連携システム）
 - ・ サイバー攻撃対応
 - 電子カルテで使用できる USB をセキュリティーソフト内蔵の貸出用 USB に限定し、個人用 USB は使用不可とする。
 - 外部からの不正アクセス防止機能を有す NAS（ネットワークハードディスク）を設置し、電子カルテデータの複数方式によるバックアップ体制を確立する。

(達成状況)

- ▶ 部門システム更新済み。
- ▶ 「統合型臨床情報システム手術支援システム」「NAS TelaStation」導入済み。

(9) 患者増加対策の推進

【達成度】B

- 市民公開講座を開講することにより、地域住民に病気や医療に対する知識を深めてもらい、健康増進に役立てていただく。また地域住民との信頼関係を築き、地域連携の充実や市民に医療情報を伝える機会を増やすことで、受診するきっかけを促す。さらに、患者の疾患・地域性・適正入院期間など分析を行うことにより患者の増加を図る。
 - ・ 地域の医療・福祉施設、救急隊等との研修会や意見交換会を活性化させ、連携を強化させる。
 - ・ 公開講座を実施する（健康づくり教室・市民公開講座）。
 - ・ 診療分析（地域・疾患など）による患者増計画を策定する。

(達成状況)

- 市民公開講座は、年 2 回開催済である。
- 10 月に地域医療懇談会を開催し、地域医療機関との連携強化を図った。
- DPC データを用いた退院調整に着手し、入院期間の適正化を進める。
- 医療福祉連携研修会を 1 回開催 (9 月 1 日)。意見交換会開催 (3 月 12 日)、連携会開催 (12 月 14 日)
- 診療分析は、SMASH (分析システム) を活用している。
- 看護必要度・重症度、診療実績等

(10) 施設基準管理の徹底 (新規取得と維持)

【達成度】B

- 固定的な医療収入対策として、施設基準を漏れなく取得する。
 - ・ 報告書管理体制加算の届出。
 - ・ マイナンバーカードによる健康保険証の利用を推進する。
 - ・ 電子処方箋の導入の準備を進める (システム改修含む)

(達成状況)

- 新規獲得
感染対策向上加算 1 指導強化加算、入退院支援加算 2、看護補助体制充実加算
補強器適合検査、仙骨神経刺激装置植込術交換術。
- 氷見市の広報誌等の効果で、マイナンバーカードによる健康保険証利用は増加している。
- 電子処方箋については、電子カルテ側では導入可能となっている。今後システム改修や費用の面で引き続き検討していく。

(11) 経費削減の推進

【達成度】B

- 医療収入が伸び悩んでいる現状において、支出の削減により収支の改善を図る。
 - ・ 毎月の収支概要を病院運営会議および部科長会で報告する体制を整える。また、経営分析を実施し、院内に情報を発信することにより、職員の経営的意識の向上

を図る。

- ・ ペーパーレス化の実施（コピー用紙の使用枚数及びコピー機使用回数について、前年度より削減）。
- ・ ジェネリック医薬品採用数量シェア 90%以上を継続する。
- ・ 医療材料ベンチマークシステムの利用により価格の適正化を図り、診療用消耗品費の対医療収入比を 10%以下に抑える。

（達成状況）

- 今年度より運営会議、部科長会にて収支報告を行った。
- 分析については、全国自治体病院協議会にて実施している年 1 回の調査結果をもとに、当院の経営状況を他院と比較した数値を算出。算出された数値をもとに現在改善案を模索中。
- 印刷費対昨年度比：-22%
- ジェネリック医薬品採用数量シェア率：92.6%
- 診療用消耗品費対医療収入比：8.7%

【その他の年度事業】

（1 2）氷見市との連携

1）公立病院経営強化プランの作成

【達成度】A

- 2022 年 3 月末に公表された「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」を踏まえて「公立病院経営強化プラン」を 2023 年度中に策定することが求められている。
- ・ 委員会を立ち上げる（氷見市含む）。
- ・ 年度内にプランを完成させる。

（達成状況）

- ・ 公立病院経営強化プランの作成完了、病院・氷見市 HP に掲載済み

2）看護師・薬剤師等医療人材の確保制度の充実

【達成度】B

- 氷見市の協力による支援制度を最大限に活用し、人材の確保を行う。

- ・ 氷見市における修学資金制度の新設・充実を要請する。

看護師；修学資金制度の充実（対象枠の拡大）

薬剤師；修学資金制度の新設

（達成状況）

- 薬剤師の修学資金制度は、今年度から新設した（第5・6学年、年額120万円）。
- 看護師の修学資金制度の対象枠については、拡大（金沢医科大学看護学生で、富山県又は石川県出身者）したが、今後もさらなる拡大を要請していく（4年間、年額60万円）。

（2）回復期リハビリテーション病棟患者数の増加

【達成度】B

- 入院時から在宅生活期において一貫したリハビリテーションを実施しており、当院の特徴である回復期リハビリテーション病棟は呉西地区において充実したものとなっている。
- ・ 地域医療連携部を通して地域連携パス（脳卒中・大腿骨骨折）での受入を強化する。

（達成状況）

- 高岡市民病院の脳神経外科が非常勤医師のみとなったため、急性期の患者の転院が増加している。
- 内科的疾患の患者も受入れ病床稼働率の向上を図った。

（3）へき地巡回診療の継続

【達成度】A

- へき地医療拠点病院として、氷見市の過疎地域における医療体制の確保は当院の使命であり、また学生教育の場となっている。
- ・ 訪問地域8地区、年間80日を実施する。

（達成状況）

- 人口減少が著しい中において、患者数は維持しており、高齢者の医療確保に貢

献している。

- へき地巡回診療は、第5学年臨地実習「地域医療学」のプログラムとして、令和5年度は第5学年116名のうち、92名がへき地巡回診療に毎週火曜日同行している。

(4) 経営管理指標

【達成度】B

	令和5年度目標	実績
一般病棟 平均在院日数	17日	17.7日
新入院患者数	12人/日	9.1人/日
入院患者数（回復含む）	191人/日	183.2人/日
回復リハ病棟患者数	40人/日	39.1人/日
病床稼働率	76%以上	73.2%以上
重症度、医療・看護必要度	32%以上	30.2%以上
外来患者数	530人/日	524.7日/日
患者紹介割合	37%以上	28.3%以上
医療収入	51億4千8百万円	49億5千9百万円

4. 金沢医科大学氷見市民病院 損益計算書及び貸借対照表 (表4 参照)

《損益計算書》

医業収益

医業収益は、前年比9千3百万円減の49億8千6百万円となりました。うち、入院収益は前年比9千6百万円減の30億7千8百万円、外来収益は前年比1千1百万円増の18億4千3百万円です。

医業費用

医業費用は、前年比1千3百万円減の56億2千9百万円で、うち、材料費が前年比4千万円増の13億5千7百万円、給与費が前年比7千2百万円減の30億7千6百万円、委託費は6億5千5百万円、設備関係費が1億2千7百万円、その他の経費で2億5千9百万円、氷見市へ支払う指定管理者負担金は前年比1千2百万円増の1億5千5百万円です。

医業外収益

計4億8千9百万円で、うち氷見市からの交付金など補助金収益は前年比3億2千3百万円減の4億8千1百万円です。

(参考 コロナ補助金R5:5千2百万円、R4:3億5千万円、R3:3億1千4百万円、R2:3千4百万円)

経常利益

以上の損益計算の結果、経常利益は1億5千7百万円の支出超過となりました。

《貸借対照表》

資産の部 合計は前年比2億8千1百万円減の11億1百万円、負債の部 合計は前年比5千5百万円増の14億1千9百万円となりました。

流動資産

前年比2億7千8百万円減の10億7千2百万円となりました。うち、現金預金は4百万円、未収入金は10億3千2百万円、貯蔵品は3千7百万円です。

固定資産

機器備品の取得などで、前年比3百万円減の2千9百万円となりました。

流動負債

前年比4千万円増の7億1千7百万円となりました。うち、未払金は5億1千万円、預り金は5千1百万円、賞与引当金は1億5千6百万円です。

固定負債

退職給付引当金は、前年比1千5百万円増の7億2百万円となりました。

純資産

大会計からの収益事業元入金、1億7千9百万円減の5千3百万円となりました。また、利益剰余金は1億5千7百万円減少し、累積損失は3億7千1百万円となりました。

以上

(表4) 金沢医科大学氷見市民病院 損益計算書及び貸借対照表

《損益計算書》

(単位:百万円)

科 目	決算額	前年比	科 目	決算額	前年比
	金額	金額		金額	金額
医業収益	4,986	▼93	医業費用	5,629	▼13
入院収益	3,078	▼96	材料費	1,357	40
外来収益	1,843	11	給与費	3,076	▼72
受託事業収益	46	▼9	委託費	655	14
施設設備利用収益	19	1	設備関係費	127	6
			経費	259	▼13
			指定管理者負担金	155	12
			医 業 利 益	△ 643	▼80
医業外収益	489	▼322	医業外費用	3	▼1
寄付金収益	1	▼1	補助金返還金	3	▼1
補助金収益	481	▼323			
雑益	7	2	経 常 利 益	△ 157	▼401

《貸借対照表》

(単位:百万円)

科 目	決算額	前年比	科 目	決算額	前年比
	金額	金額		金額	金額
流動資産	1,072	▼278	流動負債	717	40
現金及び預金	4	0	未払金	510	42
未収入金	1,032	▼280	預り金	51	1
徴収不能引当金	△ 7	0	賞与引当金	156	▼3
貯蔵品	37	0	その他	0	0
その他	6	2	固定負債	702	15
固定資産	29	▼3	退職給付引当金	702	15
工具器具備品	225	▼9	負債の部合計	1,419	55
減価償却累計額	△ 196	6	純資産	△ 318	▼336
車輛	1	▼1	元入金	53	▼179
減価償却累計額	△ 1	1	利益剰余金	△ 371	▼157
			純資産の部合計	△ 318	▼336
資産の部合計	1,101	▼281	負債・純資産合計	1,101	▼281